

令和8年度森林学習が始まりました

岩手北部森林管理署では、小学校の児童を対象に森林学習を行っています。

今年度も、複数の地元小学校により、森林学習への協力依頼があり、職員が、直接小中学校等に出向いて講義等を行うこととしています。

令和8年度における最初の森林学習を5月8日（金）八幡平市にある八幡平市立安代小学校で行いました。

対象者は、安代小学校5年生15名、田山小学校3名でした。

今後、森林学習が3回行われる予定となっていることから、事前に教室で森林学習についてのオリエンテーション形式の授業を行いました。

森林管理署の仕事や、森林の広さについて、世界全体から日本国内、岩手県北地域の状況を説明して、自分たちが住んでいる八幡平市は、総面積と森林の割合が約78%もあり、自然豊かな地域であること、森林について、人工林と天然林の違いや森林の役目（光合成のしくみ、緑のダムの機能、防災機能、動物のすみか）が大切であること、また、木材の使い道と私たちの生活との関わりについても学習しました。

授業では、会話形式にしたことにより、「森林の広さがよく分かった」「人工林と天然林の違いがよく分からなかった」「自分たちが自然豊かな地域に住んでいることが分かった」「森林について、もっと勉強をしたかった」と感想をいただきました。

今後は、児童から、「人工林と天然林の違いがよく分からなかった」の感想がでたので、次回からの森林学習では、人工林と天然林についての学習を取り入れながら、児童たちに、森林への関心や理解を深めることができるよう、楽しい森林学習を続けていきたいと思います。



森林についての授業風景



児童からの感想発表